

# 2017年度決算概要及び2018年度業績予想

# 2017年度 航空取扱量

	2016年度 実績 [A]	2017年度 実績 [B]	増減 [B] - [A]	% [B] / [A]
<b>航空機発着回数 (万回)</b>	<b>24.6</b>	<b>25.2</b>	<b>0.7</b>	<b>102.7%</b>
国際線	19.3	19.9	0.5	102.8%
国内線	5.2	5.4	0.1	102.4%
<b>航空旅客数 (万人)</b>	<b>3,962</b>	<b>4,094</b>	<b>132</b>	<b>103.3%</b>
国際線	3,241	3,348	107	103.3%
日本人	1,349	1,370	21	101.6%
外国人	1,430	1,594	164	111.5%
通過客	462	384	△78	83.0%
国内線	721	746	25	103.5%
<b>国際航空貨物量 (万 t)</b>	<b>214</b>	<b>228</b>	<b>14</b>	<b>106.6%</b>
<b>給油量 (万 kl)</b>	<b>455</b>	<b>447</b>	<b>△8</b>	<b>98.2%</b>

- 航空機発着回数は、韓国線、香港線等のアジア方面を中心とした国際線及び国内線の新規就航や増便等により、前期に比べて増加、6期連続で開港以来最高値を更新。
- 航空旅客数は、北米-アジア間の直行便が増加したことや羽田空港二次増枠に伴う米国便シフト等の影響に伴い通過客等は減少したものの、引き続き旺盛な訪日需要や航空路線の拡充等を背景に国際線外国人旅客が大きく伸びたことに加え、国内線旅客も好調に推移したことから、初の4,000万人超と前期に比べて増加、3期連続で開港以来最高値を更新。
- 国際航空貨物量は、引き続き旺盛な半導体関連需要等を背景に輸出入・仮陸揚ともに好調に推移したことから、前期に比べて増加。

# 2017年度 連結決算概要

(単位：億円)

	2016年度 実績 [A]	2017年度 実績 [B]	増減 [B] - [A]	% [B] / [A]
<b>営業収益</b> (外部顧客に対する売上高)	<b>2,174</b>	<b>2,312</b>	<b>138</b>	<b>106.4%</b>
空港運営事業	1,052	1,068	16	101.5%
リテール事業	788	911	123	115.6%
施設貸付事業	303	302	△0	99.8%
鉄道事業	29	29	0	100.0%
<b>営業利益</b>	<b>414</b>	<b>466</b>	<b>51</b>	<b>112.5%</b>
空港運営事業	43	67	24	156.0%
リテール事業	223	255	31	114.1%
施設貸付事業	141	139	△2	98.4%
鉄道事業	6	6	△0	98.2%
<b>経常利益</b>	<b>372</b>	<b>432</b>	<b>59</b>	<b>116.0%</b>
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>253</b>	<b>359</b>	<b>105</b>	<b>141.7%</b>

- 2017年度連結決算は、前期比「増収増益」。
- 航空機発着回数が堅調に推移したことにより、航空機材の小型化に伴う機材重量の減少はあるものの、空港使用料収入は前期並み。一方、国際線外国人旅客数等の増加に伴い旅客施設使用料収入が増収となったことや、前年度下期以降に順次開業した新店効果等により物販・飲食収入、構内営業料収入が増収となり、全体として増収。
- 営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益は民営化以降最高を更新。
- なお、特別利益に厚生年金基金の代行返上益（133億円）の計上がなかったとしても当期純利益は民営化以降最高。

# 2018年度 航空取扱量見通し

	2017年度 実績 [A]	2018年度 見通し [B]	増減 [B] - [A]	% [B] / [A]
<b>航空機発着回数 (万回)</b>	<b>25.2</b>	<b>25.6</b>	<b>0.4</b>	<b>101.6%</b>
国際線	19.9	20.3	0.4	102.0%
国内線	5.4	5.4	0	100.1%
<b>航空旅客数 (万人)</b>	<b>4,094</b>	<b>4,292</b>	<b>198</b>	<b>104.8%</b>
国際線	3,348	3,542	194	105.8%
日本人	1,370	1,391	21	101.6%
外国人	1,594	1,771	177	111.1%
通過客	384	379	△4	98.9%
国内線	746	750	3	100.5%
<b>国際航空貨物量 (万 t)</b>	<b>228</b>	<b>237</b>	<b>8</b>	<b>103.7%</b>
<b>給油量 (万 kl)</b>	<b>447</b>	<b>461</b>	<b>14</b>	<b>103.2%</b>

- 航空機発着回数はフルサービス・キャリアの新規就航をはじめ、LCCを中心に引き続きアジア方面における新規就航や増便等が見込まれることから前期を上回る見通し。
- 航空旅客数は、国際線においてハワイやオセアニア、欧州方面に日本人旅客の増加が見込まれるほか、外国人旅客についても中華圏や韓国、東南アジア方面を中心とした引き続き旺盛な訪日需要を背景に増加が見込まれること等から前期を上回る見通し。
- 国際航空貨物量は、輸出入及び仮陸揚貨物が堅調に推移すると見込まれることから前期を上回る見通し。

# 2018年度 連結業績予想

(単位：億円)

	2017年度 実績 [A]	2018年度 予想 [B]	増減 [B] - [A]	% [B] / [A]
<b>営業収益</b> (外部顧客に対する売上高)	<b>2,312</b>	<b>2,455</b>	<b>142</b>	<b>106.1%</b>
空港運営事業	1,068	1,102	33	103.1%
リテール事業	911	1,021	109	112.0%
施設貸付事業	302	301	△1	99.4%
鉄道事業	29	29	△0	97.2%
<b>営業利益</b>	<b>466</b>	<b>495</b>	<b>28</b>	<b>106.2%</b>
空港運営事業	67	79	11	116.6%
リテール事業	255	282	26	110.5%
施設貸付事業	139	129	△10	92.4%
鉄道事業	6	5	△1	80.5%
<b>経常利益</b>	<b>432</b>	<b>463</b>	<b>30</b>	<b>107.1%</b>
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>359</b>	<b>293</b>	<b>△66</b>	<b>81.6%</b>

- 2018年度連結業績予想は、前期比「増収減益」。
- 新規就航等による航空機発着回数や国際線外国人旅客数の増加等に伴い、航空機材の小型化に伴う機材重量の減少はあるものの、空港使用料収入、旅客施設使用料収入等は増収。また、第1旅客ターミナルビル出国手続き後エリアにおける新規店舗の開業等により物販・飲食収入、構内営業料収入は増収となり、全体として増収。
- 営業収益、営業利益、経常利益は民営化以降最高を更新する見通し。
- なお、厚生年金基金の代行返上益を除いた前期と比較すると、当期純利益も民営化以降最高となる見通し。